

第10章

今後の取組みの方向性

特別史跡名古屋城跡の保存・活用事業は、遺構の修復整備等の保存事業と建造物の復元整備等の活用事業とのバランスを図りながら、計画的かつ段階的に進めていく必要がある。5-1 で掲げた特別史跡名古屋城跡の目標の達成に向けて、今後の取組みの方向性を以下のとおり定める。なお、事業展開として示す1期～3期は各事業の道筋・期間を示しており、各期間は概ね10年程度である。

<重点的な取組み>

本丸 天守閣・本丸御殿の整備等による往時の名古屋城本丸を実感させる場の創出

天守閣及び本丸御殿の整備により名古屋のシンボルを再現し、往時の名古屋城本丸を実感させる場を創出する。さらに、「昭和実測図」や「ガラス乾板写真」に詳細に記録されている東北隅櫓及び本丸表一之門、本丸東一之門・二之門の復元整備の検討を進め、続いてそれらをつなぐ本丸多聞櫓の復元整備等について検討を行う。

復元整備のみでなく、劣化等がみられる本丸表二之門及び東南隅櫓については、往時の本丸の姿を維持できるよう、修復計画を策定した上で修復整備を実施する。

また、現在整備中である展示収蔵施設の整備を進め、重要文化財旧本丸御殿障壁画等を安全かつ適切に収蔵し積極的に公開することにより、復元が進む本丸御殿と併せて、かけがえのない文化財の宝庫である名古屋城の魅力を高める。

表 10-1

保存事業	活用事業
<ul style="list-style-type: none"> ・本丸表二之門の修復整備 ・東南隅櫓の修復整備 ・西北隅櫓の修復整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・天守閣の整備 ・本丸御殿の復元整備（復元模写制作を含む） ・東北隅櫓等の復元整備 ・本丸多聞櫓の復元整備等 ・展示収蔵施設の整備

事業内容	1期	2期	3期
天守閣の整備	調査研究、整備		
本丸御殿の復元整備	整備		
本丸表二之門等の修復整備	調査研究、整備		
東北隅櫓等の復元整備	調査研究、整備		
本丸多聞櫓の復元整備等		調査研究、整備等	
展示収蔵施設の整備	調査研究、整備		

図 10-1 本丸における事業展開

二之丸

二之丸全体の整備等による往時の名古屋城の全体像の再生

二之丸庭園について保存整備を着実に進めるとともに余芳の復原整備の検討を行う。

また、愛知県体育館の移転を見据え、特別史跡未告示区域の解消に取り組むとともに、二之丸御殿・向屋敷の復元整備等をはじめとした二之丸全体の整備を検討し、往時の名古屋城の全体像を再生する。

表 10-2

保存事業	活用事業
<ul style="list-style-type: none"> ・二之丸庭園の保存整備 ・余芳の復原整備 ・特別史跡未告示区域の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・二之丸御殿、向屋敷の復元整備等 ・二之丸大手門・東門の復元整備等 ・二之丸の櫓の復元整備等

事業内容	1期	2期	3期
二之丸庭園の保存整備	旧名勝指定範囲の調査研究、整備	名勝指定範囲全体の調査研究、整備	
余芳の復原整備	調査研究、整備		
二之丸御殿、向屋敷の復元整備等	愛知県体育館移転 特別史跡未告示区域の解消 調査研究、整備等		
二之丸大手門・東門の復元整備等			
二之丸の櫓の復元整備等			

図 10-2 二之丸庭園における事業展開

石垣

名古屋城の歴史を物語る広大な石垣の調査・修復整備

名古屋城の石垣は城全体での総延長は約8.2kmと広大であり、高さは天守台石垣で最大約20.0mに及ぶ。公儀普請により築かれており、石材の種類や多くの刻印等からもそれをうかがい知ることができる。また、当時の石垣構築技術が観察できるとともに、その後の被災やそれに伴う修復整備等の痕跡など名古屋城の長い歴史が写し出されている。

このような名古屋城の歴史を物語る広大な石垣について、調査研究を推進するとともに、現況調査を踏まえた石垣カルテを作成し、それに基づいて石垣の保全方針及び修理・修復計画・方法を定め、来場者の安全性の確保が急がれる部分や崩落等の危険性の高い部分から順次修復整備を行う。

事業内容	1期	2期	3期
名古屋城の歴史を物語る広大な石垣の調査・修復整備	調査研究、整備		
	石垣カルテの作成 石垣保全方針の作成	石垣カルテの追加・更新 石垣保全方針の追加・更新	

図 10-3 石垣における事業展開

上記の重点的な取組みを着実に進めるためには、名古屋城総合事務所の調査研究体制の強化が不可欠である。

各分野の専門知識を持つ職員を確保し、専門的・総合的に調査研究を行える体制を構築し、発掘調査や史資料調査等の十分な調査研究成果に基づき特別史跡名古屋城跡の保存・活用を進める。

事業内容	1期	2期	3期
名古屋城総合事務所の調査研究体制強化	調査研究体制強化		

図 10-4 調査研究体制強化における事業展開

<強化継続していく事業>

■城跡にふさわしい環境づくりによる名古屋城の魅力の向上

城跡にふさわしい植栽管理や天守閣等への視点場の整備により、天守閣や本丸御殿等の建造物や二之丸庭園、石垣等の眺望景観を向上させ、名古屋城の魅力を高める。

また、名古屋城の価値や魅力をよりわかりやすく伝えるために、説明板の新設や表示内容を充実させる。

表 10-3

保存事業	活用事業
<ul style="list-style-type: none"> ・城跡にふさわしい植栽管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明板の新設、AR 技術の導入等による表示内容の充実 ・天守閣等への視点場の整備

■実施中の保存事業・活用事業の継続と充実による特別史跡名古屋城跡の後世への継承

建造物等の計画的な維持・整備により、特別史跡名古屋城跡を後世に確実に継承する。

また、周辺の歴史的関連資産等を含めた企画・イベントや情報発信の充実により、名古屋城の価値や魅力を幅広く積極的に伝える。

表 10-4

保存事業	活用事業
<ul style="list-style-type: none"> ・旧本丸御殿障壁画の保存修理 ・名古屋城のカヤの保護育成 ・建造物等の計画的な維持修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構を活用した企画・イベント等の充実 ・名古屋城の特徴と史跡全体の情報発信等の充実 ・周辺の歴史的関連資産等との連携強化